

不合格より怖いのは、

計測機器は徐々にズレます。
その始まりは分かりません。

定期校正のみの“点”での確認



この「分からない期間」が、品質リスクの本質です。

▷この構造は、すべての現場で避けられません。

それにより

影響範囲が特定できない

全数再検査になる

リコールリスクが発生する

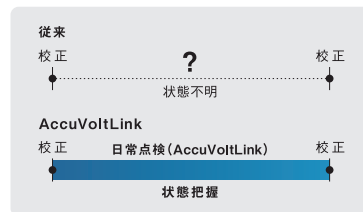
どうすればよいか

一 点を、線に変える。

AccuVoltLinkは、定期校正の間に日常点検を行い、
状態を継続的に把握します。

その結果 **異常の早期発見** **影響範囲の特定** **不合格の未然防止**

▷従来の“事後対応”から、“未然防止”へ。

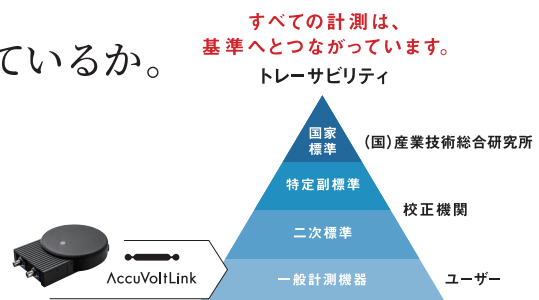


信頼できるのか？

一 その正しさは、どこにつながっているか。

計測の正しさは、単体では成立しません。それは、国家標準
へと遡れる「トレーサビリティ」によって支えられています。
AccuVoltLinkは、その連鎖を日常に持ち込みます。

▷「なぜ正しいか」を説明できる
状態を実現します。



トレーサビリティについて

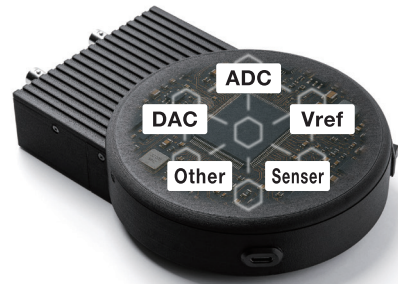
トレーサビリティとは、その測定結果の正しさを、基準までさかのぼって確認できる状態のことです。たとえば、「この値はなぜ正しいのか？」とたどっていくと、その測定に使われた計測器、さらにその計測器を校正した基準へとつながっていき、最終的に基準となる値にたどり着ける状態を指します。

分からない期間です。

AccuVoltLinkは、計測機器の状態を
日常的に監視・補正・記録します。

一 自己監視機能を持つハードウェア

内部の部品状態を監視し、異常や劣化の兆候を検出します。



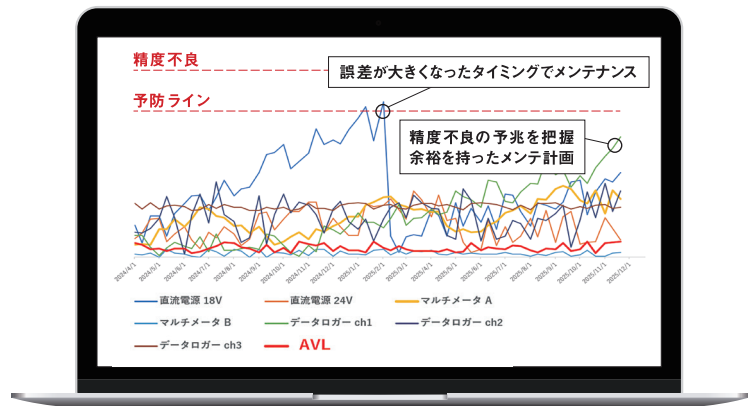
イメージ図

一 検出能力を高めるアルゴリズム

取得した状態データを解析し、ズレや変化の兆候を把握します。

一 状態をデータで見える化

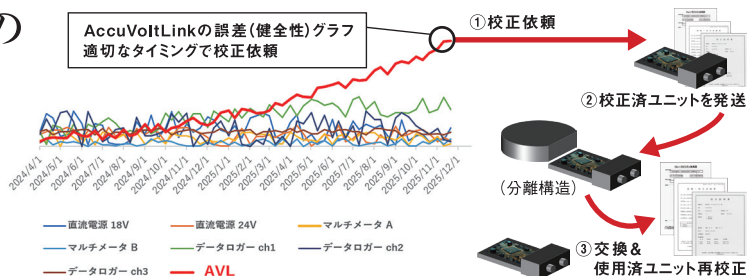
計測データと診断データを記録し、
状態の変化を時系列で確認できます。



一 ダウンタイム0日の校正運用

交換用ユニットを活用することで、
校正中も現場の運用を止めずに、
計測信頼性を維持できます。

※運用条件・対象機器により異なります。



一 導入メリット

「不合格後の対応」から、「日常的に
信頼性を確認する運用」へ。品質リスク
と対応工数の低減につながります。

	BEFORE	AFTER
計測器の品質	校正に出すまで不明	日々、信頼性を確認しながら使用
業務効率	不合格発生で膨大な業務	不合格を防ぎ生産性を落とさない
品質リスク	リコール、再検査、ライン停止	重大損害を未然に回避
企業の信頼性	トラブル発生で企業イメージ低下	高度な品質管理で差別化

一 自律的に正しさを維持する。

AccuVoltLinkは、内部で状態を監視・補正・記録し、常に正しい状態を維持します。

▷ その結果、「なぜ正しいか」を説明できる状態へ。



自己診断
各部品の状態を監視し、異常を検知



セルフキャリブレーション
測定値のズレを自動で補正



データ記録
状態変化を時系列で保存

一 研究開発に裏付けられた信頼性

2020年度～2024年度 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 NEDOプロジェクトから生まれた技術です。

▷ 国家標準に基づく技術開発により成立しています。

一 あらゆる計測の現場に。

計測の現場を、横断的にカバーします。

▷ 計測の信頼性が求められるすべての現場に対応します。



社内標準器



生産ライン



開発評価



制御盤

一 止めずに導入し、段階的に品質向上へ。

運用を変えずに導入。効果を見ながら、組み込み・運用を段階的に拡張。最終的に、本質的な効率化へ。

▷ まずは既存の運用を変えずに導入できます。



手動チェック



自動組込み



リアルタイム監視

一 AccuVoltLink

製品仕様

計測：DC±40V 最小分解能 1μV
：温度(熱電対計測)
出力：DC±10V 最小設定分解能 1mV
：温度(データロガー用熱電対出力)
電源：USB充電式内蔵バッテリー
制御：専用コントローラ(Bluetooth)
保存：内蔵フラッシュメモリ、SDカード

アプリケーションソフトウェア

・WEBアプリ
・データ(計測データ、AccuVoltLinkの状態データ)のグラフ化
・レポート出力
・検査対象製品の登録(テスト電圧、許容誤差範囲など)*開発中
社内標準器として使用可能な精度を備えています。
精度などその他仕様についてはお問い合わせください。



スタンドアロン直流電圧標準機

AccuVoltLink

▷ 現場で扱えるサイズで、標準器レベルの確度を実現します。

開発・製造元



株式会社アキュボルトリンク

〒563-0103 大阪府豊能郡豊能町東ときわ台8-3-16
<https://accuvoltlink.jp/>

website

